

# 提 案 概 要

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 総則部会

## 1 提案テーマ 「かかわりの知」をもとめて ～たてわり活動を通じた他学年との学び合い～

2 学年 全学年

## 3 平成27・28年度神奈川県小学校教育課程研究会研究主題とのかかわり

① 学習指導要領の内容を踏まえた特色ある教育課程の編成の工夫・改善

## 4 学習指導要領との関連（内容項目）

第1章 総則 第1 教育課程編成の一般方針

1 学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的、基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。その際、児童の発達<sup>の</sup>段階を考慮して、児童の言語活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮しなければならない。

## 5 実践に向けての課題意識

本校児童は、個々には素直で明るく人懐っこい性格の子どもが多いが、一方で、集団の中でお互いを認め合ったりコミュニケーションを上手にとったりする力には乏しい。また、自分で感じ、判断して見通しをもって行動したり対応したりする力も不足している。そのような児童の実態から本校では、学校教育ふじさわビジョンの3つの知にある「かかわりの知」を育てることが特に必要であると考えた。また、その『知』を育てる具体的な3つの力を『コミュニケーション能力・認め合う力・課題解決能力』と位置づけた。そこで、本校では、かかわりの知を育てるためには、学級や学年をこえたかかわりも必要だと考え、異年齢集団でより深いかかわりを作ることを目指した。それが、たてわり活動の充実である。ただし、今までにあったような、受動的な活動だけでは、難しいと考え、本校では異学年のかかわり合いを意識した実践「たてわり授業」を行うことにした。

## 6 実践の概要

『異学年のかかわり合いを深める「たてわり活動」』を実施する上での教育課程編成上の工夫

- ・たてわり教室配置  
学年ごとではなく、たてわりの組ごとに教室を配置（3～6年生）。普段から顔を見合わせるフロアーにすることで交流を盛んにした。
- ・たてわり掃除（こまピカタイム）や、たてわり給食  
月末1週間は、1～6年生8人ほどの班で各掃除場所を清掃。その週に1度は給食を一緒に食べた。給食の配膳・休憩時間や清掃場所の工夫・改善を繰り返した。
- ・たてわり遠足  
引地川親水公園をフィールドにウォークラリーを計画、実施。6年生中心にコースや活動内容を考えた。
- ・たてわり授業  
1組2組3組グループで、それぞれ授業研究を行い、たてわりクラスでの年間を通じた授業実践を行った。授業時間の確保や教室の配置の工夫・改善を繰り返した。

## 7 成果と課題

- 〈成果〉○1学期のうちに、たてわり遠足などの行事を行う中で人間関係の基礎ができ、2学期以降の授業実践では活発な意見交流が行われていた。3学期には、異学年の児童がフロアーで自然と交流する姿が見られた。
- 『たてわり活動』の実践を通して、認め合い、かかわり合うことで、児童の「自己有用感」の高まりが、6年生をはじめ、どの学年でも見られた。（振り返りカード・アンケート）
- 授業研究を「○組グループ」で行うことで、学年のつながりを越えた縦のつながりが教員間にも構築され、学校全体に一体感が生まれた。
- たてわり活動における、学年ごとの目標を達成しようとする児童が多かった。また、人とかかわることへ意欲的な児童が増えた。たてわり活動が、「かかわりの知」を育てることにつながった。
- 〈課題〉○同じ学年のつながりが、減ったと感じる児童がいた。横のつながりをつくる工夫が必要である。
- ほかのグループのつながりが少なかった。グループ間の関わりを深める工夫が必要である。

## 8 予想される協議の柱

- ・年間計画の中で、有効な異学年交流を行う場面や、必要なことはなにか。